

乳児股関節脱臼の診断遅延ゼロへの取り組み

— 先天性股関節脱臼は痛くない —

先天性股関節脱臼（発育性股関節形成不全）とは赤ちゃんの脚の付け根の股関節が外れている状態であり、「痛そう」「歩けない」というイメージを持つ方が多いがこれは間違いである。外傷による脱臼とは異なり、乳児股関節脱臼では関節包（関節を包む袋）や靭帯、軟骨などが出生前から正常とは異なったゆるんだ状態なため、先天性股関節脱臼の赤ちゃんはいたがらず、歩くことができる。股を開けないことが特徴であるが、しっかり脚を広げることができる赤ちゃんもいるため、診断は容易ではない。

2011年の先天性股関節脱臼の全国調査（1295例）で1歳以降に脱臼と診断されたのは15%（199例）であり、1例を除く全例が公的乳児健診を受けていたにも関わらず、脱臼と診断されていなかった。乳児健診では運動発達など小児科スクリーニングと股関節を含めた他の疾患のスクリーニングを小児科医が同時に行うことが一般的であり、そこで股関節脱臼が疑われると整形外科医に紹介される。全国調査の結果を踏まえて、股関節検診体制を見直す動きがあり、危険因子を考慮したスクリーニングの実施が進められている。

先天性股関節脱臼の危険因子は①女児（89%）、②家族歴（27%）、③骨盤位分娩（15%）、④太ももやお尻のしわの左右差、⑤脚の開きが悪いという5項目のうち、①～④の2項目以上が陽性の場合、または⑤が陽性の場合には整形外科医の診察を受ける。沖縄県では沖縄県小児保健協会を中心に県内の小児科医、保健師、助産師への乳児股関節脱臼に関する勉強会と健診マニュアルの改訂を行い、琉球大学医学部付属病院、離島を含む各県立病院、多くの県内の病院および開業の整形外科医が連携し、平成28年4月より乳児股関節スクリーニングが実施されている。乳児股関節脱臼の診断遅延ゼロを目指したこうした取り組みは着実に効果を上げている。

（整形外科・神谷武志）

問い合わせは整形外科学講座まで。

電話098（895）1174、FAX098（895）1424。

